

より「つながり」を深めて



長野県音楽教育学会会長 矢崎 進一

長野県音楽教育学会は、長野県で学ぶ子どもたちの音楽教育に関わる教師に対して、会員の資質向上を提供する同好会としてその責を果たしています。

平成27年度より、あり方検討特別委員会を立ち上げ「組織を安定的に維持することが、会員の資質向上につながり、子どもの育ちにつながる」と考え、課題を明らかにして、改善していく方策を検討してきました。

具体的には、「大会委員会運営に関わり開催地区の運営方針を尊重することを基盤としながら、研究研修委員会や企画情報委員会との協力体制等について」「日常の授業改善へのつながりを深め、また、関東ブロック大会へつなぐことを考え、全領域公開へ向けての研究体制づくりやそこにかかわる本学会の組織の見直しについて」です。このことについて本年度、一つ目に、大会委員会に「大会県事務局」を設けました。大会運営にあたっては、地区事務局の先生には大変ご苦労され連絡調整などしていただいています。「大会県事務局」を置くことで少しでも大会開催地区の運営負担を軽減できるようにしていきます。二つ目に、研究研修委員会に「研究部」と「研修部」を位置づけました。特に研究部では平成30年度東信大会から4部門（歌唱・器楽・創作（音楽づくり）・鑑賞）体制で授業校の授業づくりサポートにかかわれるよう研究の組織づくりや研究体制づくりを行っていく方向です。研修部においても、学習指導要領改訂（先行実施；H30年度から、全面実施；小学校 H32年度・中学校 H33年度）を視野に入れながら、音楽科指導現場の実情や要望を把握して、研修会や講演会・実践発表等を通して会員の学習指導の力量を高められる企画をしていきます。

コンクール委員会は、県学校合唱大会において、昨年度より主催である長野県音楽教育学会・NHK長野放送局・全日本音楽教育研究会に加わり、長野県大会共催として「一般財団法人塩尻市文化振興事業団」に協力して頂いています。安定的な運営を目指し、子どもたちはもとより教師共々学び合える学校合唱大会としていきたいと思えます。合奏コンクールも参加校数が増えています。子ども達の活躍の場を広げ、学習や活動の励みになるよう多くの参加をお願いします。

会誌・会報委員会、企画情報委員会は、「溪声」「学会だより」やホームページ管理など会員への情報発信及び情報交換の場を充実させていきます。

「あり方検討特別委員会」については、本年度も継続し、本年度改善してきた経過を見定めると共に「会員確保の視点から、学会の意義・方針・活動内容の発信のあり方や会員を引きつける魅力ある活動内容のあり方、ニーズに応える学会のあり方について」も含め、本学会の将来を見越して課題を見極め、検討していきます。

おわりに、ご存じのとおり平成28年度より全日本音楽教育研究会（全日音研）「関東ブロック」へ加盟しました。我々会員の資質向上のためにも、広く他県から学ぶと共に、子どもを主体とした授業づくりや丁寧な指導案の作成など、長野県が大切にしている教育スタイルを他県へ発信していくなど、他県とのつながりを深めていきたいと思います。そのためにも関東ブロック大会（栃木大会）、上伊那大会や各委員会企画の講座や研修会など、多くの会員の参加を期待しています。そして、会員の皆さんのお力により、長野県音楽教育学会が内に外に一層「つながり」が深まることを願っています。